

ヘルスサポート市場に針路をとれ!



▲日本薬剤師協会(日薬)副会長も参加したパネルディスカッションで積極的な意見交換を行った。ドン・ダウニング氏(左)とロッド・シエンファウー氏(右)。

は、「病院はより高度な医療を必要とされる患者によりその力を磨いてほしい。逆に、Dg.Sがかかりつけ薬局の機能を果たせば、モニタリングの中で、重篤な状況に移行する患者に関しては、病院に紹介することが可能」と、地域医療連携の優位性を強調する。

「ドミナント」とは、チェーンストア経営における最大の戦略とも言えるものだ。チェーンストアは多店舗展開のメリットを「個店」と比べていかに消費者に提供できるかということに存在意義がある。その最大のものは「近さ」だ。

コンビニの発展はまさしく「近い」という利便性に支えられたものだ。物理的な近さのほか、24時間営業は心理的な近さを消費者に植え付けた。

「Dg.Sも物理的、心理的近さの両方がなければなりません。前者はお年寄り歩いて買いにいける距離をいかに埋めていくか。後者は店舗に来ていただいたときに、いかにお客さまが相談してもらえるかが大事です。この2つがお客さまの中で最大化してはじめてブランドが作られます」(岡平野氏)。

そして「薬剤師の専門性強化」とは、調剤に加え、今後、見込まれるスイッチOTC(医療用医薬品からOTCに移行されたもの)の増加に伴い、より広範かつ

安全面での高度な薬の知識が問われることに対応するものだ。

厚生労働省は、今夏、医師不足問題を受けて将来の医療の在り方を検討し、「安心と希望の医療確保ビジョン」をまとめた。医師総数の不足を公的に認め、従来の医師養成数抑制方針を転換した。ただし一人前の医師を育成するには約10年かかり、看護師、助産師、薬剤師など関係職種との連携を盛り込んだものとなった。

長期的な視野に立てば、Dg.Sにおける「調剤」分野の強化は追い風が吹いていると言っていきたい。

薬剤師の専門性を高める試み「Medisere」の挑戦

将来Dg.Sの専門性を高めるためにますます不可欠の存在となっている「薬剤師」は現在どのように育成されているのだろうか。

現在薬学を有する大学は76校(08年)。1学年約1万2000人が在籍している。全国薬剤師の総数は約22万人で、約25万人の医師に匹敵する数になる。薬剤師の国家試験の合格率は約76%(08年実績)で、この3年は75%前後で推移している。4人に1人の割合で不合格者が出る計算だ。薬学6年制移行に伴

い、2010年～11年の2年間は新卒ゼロという空白期間が生まれるため、とりわけ薬剤師の採用に苦勞するDg.Sからすれば、この空白は人材確保という点で大きな経営課題になっている。

一方、この10年薬学教育において課題となっているのが、新設ラッシュによって、10年前と比較して、平均入試偏差値が60から50まで低下したことだ。また薬学6年制によって私学は、高い学費に加えてかつてのように資格取得=製薬会社や病院など医療機関へのキャリアパスという道筋が薄れてしまい、新設の増加に伴い、定員割れも続出している。

入試偏差値と国家試験合格率は必ずしも比例するものではないが、卒業生と合格率から換算して毎年約3000人程度の浪人生を生んでいる。薬剤師の資格がなくてもMR(製薬会社の医薬情報専門職)や医薬卸企業のMS(Marketing Specialist)として就職する者も多いが、浪人生のほとんどが国家試験を目指している。

このような状況下、国家試験を目指す浪人生とスキルアップを志す薬剤師を対象に新しいカリキュラムを提示したのが専門予備校「Medisere」を07年に立ち上げた児島恵美子氏だ。

児島氏は、単に国家試験突破を目指すだけではなく、専門職としてどのようなスキルを磨いていくことが望ましいか。国試突破後のキャリアアップを考慮した実践的なカリキュラムを構築している。そのもっとも特徴的なコースが、専門予備校として初の「心理カウンセラー」コースの設置である。

同コースは、地域医療人としての薬剤師が、よりその地域コミュニティにおいて中核的な存在となるための技能と知識を体系的に学習できるようになっている。同コースの一期生には、地方自治体の学校薬剤師会会長など錚々たる受講生がそろい、トップアップの指導者育成を



▲児島恵美子氏。神戸薬科大卒業後、大手ドラッグストアチェーン勤務後、大手薬剤師試験予備校を経て独立。薬剤師の新たなキャリアアップの道をさぐっている。



▶1期生は250名を集めた。九州から東北まで全国から受講生が門をたく。

図表③ 薬剤師国家試験合格率推移

	国試受験校	国試受験者数	合格率
第91回(2006年3月)	46校	11,046人	74.25%
第92回(2007年3月)	48校	12,112人	75.58%
第93回(2008年3月)	56校	13,773人	76.14%
第94回(2009年3月)	62校	約16,000人	約60%(予想)

出所 Medisere資料

(参考) 薬剤師国家試験合格率予想

想定している。

「今Dg.Sにも薬剤師のほか管理栄養士や各種専門アドバイザーがいてさまざまな付加価値を提供しようと試みています。また病院も医師、看護師、薬剤師、各技工士、理学療法士など多くの専門職によって医療サービスが構成されています。心理カウンセリングは別個の資格として存在するのではなく、すでに資格を持った方が、より高度なレベルでヘルスサポートができることを目指したものです」(児島氏)。

同コースには、日本では珍しいダンスセラピストリーダーが講師として参加している。薬剤師でも、将来増加が見込まれる在宅治療やケアハウスにおいては、薬物治療だけではなく、簡単な体操などを取り入れたセラピー技術と体系を身に付けておけば「体の機能を最後まで使う」という高齢者在宅ケアのセオリーに則って、極めて有効なツールになりうる。

「予備校という形をとったのは、単に国試突破がゴールではなく、薬剤師は生涯にわたってさまざまな知識を吸収し続けなくてはならないため、「学習」し続けられる力を養成したかったからです」(児島氏)。

薬剤師の新しいキャリアアップの形を具現化した取り組みといえよう。

Dg.S業界で薬剤師不足問題が叫ばれて久しい。実際それが改正薬事法、登録販売者制度への道程を開いた理由のひとつでもあるが、ドラッグストア経営者からすれば、薬剤師の人員費高騰も経営の現実問題として常にのしかかっていた。登録販売者制度は、その負担軽減という側面も少なからずあったと言える。

実際、「Medisere」における求人でも、Dg.S企業の平均薬剤師手当ては8～10万円が相場だ。これに対して病院勤務薬剤師は2～4万円と半額以下だ。しかし

求人数が少ないにもかかわらず人気があるのは病院勤務だ。児島社長は言う、「転職の少なさということもありますが、もっとも大事なことは病院では抗がん剤など高度医療、先進医療における薬学の実践が学べること、またそういう中で医療人として患者にかかわっていききたいという満足を求めるのです」。

言葉は悪いが、医師の処方せんを左から右へ流すだけと受け取られがちな業務しか見いだせない場合、薬剤師たちは、Dg.Sに関心を示さないだろう。彼ら彼女らはやはり医療人の自覚をもった専門職である。裏を返せば、経営者からすれば、高い人件費に見合うだけの専門性を発揮してもらうだけの環境づくり、ひいては新しいDg.Sのビジネスモデルを構築していく必要があるということだ。

その意味でDg.Sが近い将来において、調剤だけではなく、予防領域あるいはほかの領域にどこまで入っていけるか、という取り組みがはじまっている。

再び冒頭の2人の米国人によれば、アメリカでも当初予防注射や、血圧血糖値測定、骨密度測定などかつては医師の独占領域だったところに薬剤師の参加を実現した。とても厳しい道のりだった、しかし楽しい道のりだったという。

それをどうやって、医師を説得し、地域住民に理解を得、行政に協力してもらい、薬剤師の職能が広がるのが実はすべての人の役に立つということ、そして代わりをするのでもなく、許しを得るのでもなく、あくまで協調、コラボレーションしていくことをやってきたのである。

この話をわが国では到底実現不可能だという声も多々ある。しかしダウニング氏はこう言う、「自分のゴールを達成するためにはそれに対して恐れている以上に自分がそれをしたいと考える必要がある」と。わが国のDg.S業界が持つ底力を見せるときではないだろうか。 [E]